

令和三年度山王海土地改良区通常総代会を開催するにあたり、ご挨拶を申し上げます。

まずもって、本日の総代会開催会場は新型コロナウイルスの第六次感染拡大に伴い、感染予防対策として密を避け、換気機能が整備されております。ここ、紫波町情報交流館大スタジオをお借りし、開催を致した所であります。ご理解の程をお願い申し上げます。

本日の総代会には、東北農政局北上土地改良調査管理事務所 栗田所長様を始め、ご来賓の皆様には公務ご多用の所、ご臨席を頂き誠にありがとうございます。

皆様には、常日頃私共土地改良区の事業に対しまして多くの御支援とご指導を賜っておりますことに、衷心より感謝を申し上げる次第であります。

また、総代の皆様には、平素、事業推進にご尽力を賜っておりますことにお礼を申し上げます。

さて、令和三年度もコロナの感染対策に気配りしながらの業務を続けて参りました。

この一年を顧みますと積雪も多く、山王海・葛丸ダムともに三月中には満水に達し、四月六日からの施設点検配水と、水利権の前倒し変更後三年目となり、四月二六日から利水調整規程に定めている配水計画に基づいて、本配水を開始致し、許可水利権満了日の九月五日で終了を致しました。この間、七月十六日の梅雨明け後、異常高温と日照りで水需要が多くなり、ダムからの放水を増量し、稲の生育に支障のないよう対応を致した所であります。また、新たなダム管理規程の改正により、洪水調整機能の運用が求められ、利水と洪水調整と両面に対応しながらの配水業務でもありました。なお、親子ダム機能の山王海ダムから葛丸ダムへの戻し量は例年より少ない七百万トンでありました。

本年の稲作は、高温などの幾多の気候変動の中、生育も順調に推移し、台風などの自然災害の発生もなく、作況が「やや良」と実りの多い収穫であったと存じております。しかし、長引くコロナ禍で社会経済活動の自粛によりコメ需要が低迷するという予測からJA米の概算金が引下となり稲作経営は厳しい状況にあります。国、各自治体、JAグループが具体的な支援策に取り組み、米生産者の生産意欲喚起と負担軽減に尽力を頂いております。このことが、生産意欲につながることを期待しております。

県営農業基盤整備事業の償還会計は、令和四年二月二十日付で、経営体育成事業の八幡東部地区と南日詰地区が償還完了となりました。

また、去る三月十六日二十三時三十六分発生した、福島県沖地震（マグニチュード七・三）の対応について、報告致します。

山王海、葛丸両ダム共に震度四であり、山王海土地改良区災害対策要領に基づき、警戒体制を配備しダム、各頭首工、幹線水路の一点検と夜明けと共に第二次点検を実施し、現時点では異状が見られませんでした。末端の通水施設につきましては水利調整組合と協力し点検用水を利用して、点検を予定しております。

次に令和四年度の事業への取り組みについて申し上げます。

本土地区改良区の最も重要な使命は、農業用水の安定供給であります。その為に二つのダム、五つの頭首工、二十七キロメートルにおよぶ幹線水路の基幹的な農業用水施設の維持管理に努めて参ります。特に、今年度は、令和二年度より計画しておりました、山王海、葛丸ダムのダムコントロールシステム、さらに、非常用発電施設整備が「防災情報ネットワーク事業」により七億四千万円で完工の運びとなっております。この事業によりダムのより安全・安心な管理が可能となり、用水の安定的な供給に繋がるものと確信しておる所であり、改良区担当職員が操作技術向上に努め、施設の有効な運用を心がけて参る所存であります。

また、国営かんがい排水事業「山王海三期地区」地区調査の内容が提示され、国営かんがい排水事業により、機能低下した基幹水利施設の更新・改修と併せて洪水調整機能の強化を図りつつ、調整施設及び小水力発電設備の新設を行うことにより、農業用水の安定供給と維持管理費の軽減を図り農業経営の安定を資するとともに、流域治水の推進、グリーン社会の実現に寄与する整備構想が示されております。そして、この機会にこれまでの事業の地区名を新たに国営土地改良事業「山王海葛丸地区」としてスタートすることになりましたことをご報告申し上げます。

県営事業の石鳥谷西部地区農業競争力強化農地整備事業（経営体育成型）については、平成二十九年に事業推進協議会を設立以来、翌年には調査地区として採択となり、現在三地区五七五ヘクタールで各地区推進委員会を主体に県、市、改良区が一体となり事業採択に向け未相続解消、区画検討、営農ビジョン、環境調査などをこれまで約二億七千万円を費やし、事業着手に向かって鋭意努力を頂いておる所であります。

一方、改良区としては換地業務に取り組むべく準備を進めて参りましたが、換地士などのスタッフが整ったことから岩手県より業務受託し進めております。より一層の事業推進に向けて努めて参る所存であります。

次に「働き方改革」として、デジタル化によるペーパーレス化、脱印かんなど進めるために勤怠管理システムを導入し運用しており、さらなる業務効率化を図って参ります。また、職員の質的向上と業務意欲向上を目指して課長職への管理職手当と換地士、ダム管理主任技術者、簿記検定などの資格取得者への手当支給を整備し、組合員の要望に対する確かな業務執行に努めて参る所存であります。

令和四年は山王海土地改良区にとって歴史的に節目の年であります。昭和十九年に着工し、総貯水量九百六十万トンの東洋一のアースダムと言われた、山王海ダムが昭和二十七年に完工されました。そして、同時に、山王海土地改良区が七月二日に設立致しております。以来、七十周年を迎えます。「豊かな水を求めて」、幾多の艱難辛苦しながら目的達成にたゆまない努力をされた、先人に対する感謝の思いと、そして、山王海土地改良区のさらなる発展を期するために「事業回顧録」の出版と設立記念日に記念行事を企画予定しております。

次に本日の総代会には十二議案を提案致しております主な案件について申し上げます。第二号議案の規約の改正は以前からご指摘されておりました職員定数を実情に合う定数に変更するものであります。

第五号議案は国営事業について平成二十七年から二十九年までの地域整備方向検討調査、平成三十年から令和四年までの地区調査を踏まえて整備構想案が確定したことから令和五年度からの全体実施設計への移行に対して議決をお願いするものであります。

第九号議案の収入支出予算は土地改良法改正により令和四年度から農林水産省制定土地改良区会計基準に沿った勘定科目をもって計上したものです。今後とも組合員に対して責任ある運営を行って参りますので、全議案を慎重審議の上、原案通りご承認をお願い申し上げます。

結びに、米生産の余剰対策、水田活用の直接支払い交付金の対象農地の見直し、ロシアのウクライナへの軍事侵攻による社会不安、経済的影響など、農業を取り巻く環境は厳しいものがあります。厳しい環境の中でも、山王海土地改良区の信条であります「豊かな水を求めて」ダムをはじめ、農業用排水施設の保全管理と用水の安定供給に努めると共に、着工目前の国、県営事業の確実な執行に役職員一体となって鋭意努力し、取り組んで参る所存であります。

本日御出席の皆様には引き続き、ご指導ご支援を深くお願い申し上げます。

令和四年三月二十五日

山王海土地改良区

理事長 高橋 勘一